



「平和」と「復興」願いの聖火 15人のランナーがつかないだ



コロナ禍、どしゃぶり、市民が支えつないだ守山市聖火リレー
東京2020オリンピックの聖火リレーが、新型コロナウイルス感染症の世界的なパンデミックにより1年遅れで2021(令和3)年に開催されました。本市では、5月27日午前9時52分に、琵琶湖大橋(びわ湖大橋米プラザ)から、第2なぎさ公園 琵琶湖サイクリストの聖地碑のゴールまで、15人のランナーが聖火をつないで走りまし。今回は、滋賀県実行委員会が選出した聖火ランナーと、縁の下で聖火リレーを支えてくれた人々取材しました。

**中学最後の思い出作りが
未来の夢につながった**
スタートランナー 1区ランナー
しまだ ゆうと
島田 湧都さん

自 転車ランナーとして守山市の聖火リレーのスタートを切りました。雨に煙る琵琶湖の景色も心に残っています。私が聖火リレーに応募したのは、オリンピックという世界の祭典への憧れと中学陸上部最後の思い出作り、将来「教師になる」夢をかなえた時に『自分の挑戦や経験を語れる先生になりたい』などの理由がありました。せっかく聖火ランナーに選ばれたのに、昨年は新型コロナウイルスで聖火リレーも大会もみんななくなりました。一年遅れでも聖火リレーに参加できて本当にうれしかったです。雨の中のランもメディアに囲まれたことも、貴重な体験として将来につなげていきたいと思っています。



**守山の人たちに感謝
夢への第一歩を楽しめた**
9区ランナー
にしだ ゆり
西田 有里さん

聖 火リレーの当日は大雨で、聖火が消えてしまったらどうしようと不安になりました。でも、そんな雨の中でもサポートランナーが後ろを着いて来てくれたり、沿道から「がんばって」「楽しんできて」など応援をもらったりして、しっかりと最後まで聖火をつなぐことができました。スタッフやサポートランナー、応援してくれた守山の人たちにとっても感謝しています。私は陸上部で中距離走や駅伝の練習をしていて、将来は自分もオリンピックに挑戦したい思いがあります。今回の貴重な体験を、夢への第一歩だと思って思い切り楽しむことができました。



**走ることが苦手でも
最後まで聖火をつなげた喜び**
アンカー 15区ランナー
よしおか みお
吉岡 美桜さん

走 ることもスポーツも苦手、オリンピックも自分には関係ないと思っていたけれど、支援学級で先生に勧められ、聖火ランナーとしてオリンピックに関われるかもしれないと思い挑戦しました。聖火リレーは延期になり、小学校も卒業してしまいましたが、「200mをがんばって走り切ろう」と臨んだ聖火リレーの当日。すごく緊張したし、どしゃぶりの雨だったけれど、それでも応援に来てくれた人、アンカーとして聖火を最後までつなげたこと、「リモートで見ていたよ」と声を掛けてくれた人のおかげで、後からジワジワと喜びが湧いてきました。



サポートランナー
20人のサポートランナーが一つになつて聖火ランナーと一緒に走りました。新型コロナウイルスの影響と、レインコートを着ていてもずぶ濡れになる大雨の中で、応援してくれる人がいることに感動しました。

◎大雨の中の応援に感動
一生に一度のことだと思っけれど、もし次にまたオリンピックがあったら、今度は聖火ランナーとして走りたいと思いました。



速野学区長
琵琶湖をイメージした青いTシャツと横断幕を用意して、学区を代表して36人が応援に行きました。自治連合会を代表し、速野学区では「守山の北の玄関おもてなしプロジェクト」として地域住民一丸で参加する予定でしたが、新型コロナウイルスのため叶いませんでした。

◎全住民の気持ちを届けた
当日は大雨の中、「気持ちには住民全員でもてなそうの気持ちで、精いっぱい応援しました。」



ボランティアスタッフ
聖火リレーに関わりたかったし、守山を走るランナーを応援してあげたいと思ってボランティアに参加しました。コロナ禍でオリンピックを開催しても良いのかなど、聖火ランナーもボランティアも、いろいろな思いがあったと思います。私たちも悩みました。でも、大雨の中で一生懸命走るランナーを見て、すばらしい体験ができたと喜んでいきます。

◎悩みも感動も体験した



聖火ランナー写真graph

- ① ボランティアの事前説明会
- ② 雨の中、本市のスタートランナーは自転車で琵琶湖大橋を走り聖火をつなぎました。
- ③ 聖火ランナーは、激しい雨の中でも声援に応えながら湖岸堤防を走りました。
- ④ 声援に応えながら湖岸堤防を走る聖火ランナー
- ⑤ 琵琶湖大橋を走る自転車ランナー
- ⑥ 聖火ランナーとともに聖火リレーを盛り上げるサポートランナーたち

⑥ 思いをこめて聖火をつなぐトーチキス

⑥ どしゃぶりの雨の中でもランナーの家族や地域住民らが小旗を振ったり横断幕を持ったりして、沿道から応援していました。

④ 市立中学校から選抜されたサポートランナー20人が後方に着いて走り、聖火リレーを盛り上げました。

⑤ 15人のランナーは、思い思いのポーズをきめて、聖火を次のランナーにつなぐトーチキスをしました。

家族や関係者の応援が聖火リレーを盛り上げました